

筆塚





この筆塚は使い古した筆、使用
不能になった筆を供養し、納める
為の標です。所謂筆のお墓と
いうことです。

皆様が大切にしていた筆の魂を
慰め鎮める為のものです。

筆を愛玩する一人として、ささや
下すがこに建立させて頂きました。

平成四年六月三日

あしき書道連盟

会長 池永龍光

後援 田辺市教育委員会

田辺市芸術連盟

施工 橋石材 橋 博

紫樹園 若木忠幸



この地で発掘された国指定史跡の縄文時代早期の貝塚(高山寺貝塚と呼ばれ、これは三か所あるうちの第一号貝塚)



高山寺境内は海拔約三〇mの半島状の台地の先端部にあり、発掘調査により、台地のほぼ全域で縄文時代早期から弥生時代に至る遺跡が発見されています。

貝塚は台地の南・北・西の三か所にあり、発見された順に、第一号貝塚・第二号貝塚・第三号貝塚と名付けられています。

この第一号貝塚は、昭和十三（一九三八）年、墓地の拡張工事中に見られ、調査の結果、貝層のほか、土器・石器・獣骨などが出土しました。土器は多くは鉢型で、口の部分が外に反り開き、底は乳房状にとがっています。文様は、穀粒文・山形文・格子文それに貝殻を押しつけた文様です。ここで出土した土器は、縄文時代早期後半（八千年前）のものとは分かり、「高山寺式土器」と名付けられました。

石器は、自然石を利用した石鎌（石の矢じり）・石斧（石おの）・叩石・石刃などで、貝類は海産のハイガイ・カキなどが主なものでした。骨はシカ・イノシシが主で、いずれも五cmぐらいに折られていました。

この貝塚は、発見当時、近畿地方で最も古いものとして有名でした。

何と古墳があった(6世紀後半の横穴式石室をもつ円墳)



五反田古墳と呼ばれ、田辺市元町の蘇生山から西南に分かれた小さな丘陵のすそに築かれたものをこの場所に移したもの)



石室部分





五反田古墳

昭和三十二年(一九五七年)四月、本市五反田地区に於て、五反田古墳の存在が、
陸奥史蹟研究会の調査で初めて明らかとなり、
昭和三十三年七月、五反田地区の地籍調査で、
昭和三十二年(一九五七年)四月、本市五反田地区に於て、五反田古墳の存在が、
陸奥史蹟研究会の調査で初めて明らかとなり、
昭和三十三年七月、五反田地区の地籍調査で、

田辺市元町の蘇生山から西南に分かれた小さな丘陵のすそに
築かれた横穴石室の小さな円墳をここに移したものです。

昭和48（一九七三）年7月、五反田一帯の宅地造成にともない、

田辺市教育委員会は緊急発掘調査を実施しました。

調査の結果、直径15m、高さ約4m、盛土は4〜5層、周濠（墳
丘のまわりの空堀）は幅約1.5mの円墳であることが分かりました。

石室は南南西に口を閉じ、玄室（遺体を安置する室）の長さは
約2.5m、幅約1.5m、羨道部（玄室の前の空間）は不明。床面の瓦礫
から須恵器の壺と蓋坏や土師器が見つかっています。

この古墳が造られたのは六世紀後半と推定されます。





大岡作品関西物件調査隊の宿泊先



部屋からは田辺湾が見える





正面紀伊田辺駅方向を見る(その左手遠方は高山寺方向)



紀伊田辺駅



ロータリー



熊野古道案内

Map of Ancient Kumano Road



- 熊野大宮(伊弉諾)コース
- その他熊野古道
- 宇治線(宇治)下り方面

Software Publication and Ancient Express Road
 According to the Legend, the main route (red line) is the Kumano Road, which was the main route of the Kumano Road. The route is shown as a red line on the map. The route is shown as a red line on the map. The route is shown as a red line on the map.

熊野古道の歴史
 熊野古道は、古くから熊野詣の霊場として知られてきました。この古道は、熊野大宮(伊弉諾)コース、宇治線(宇治)下り方面、その他熊野古道に分かれています。この古道は、熊野大宮(伊弉諾)コース、宇治線(宇治)下り方面、その他熊野古道に分かれています。

熊野大宮(伊弉諾)コース
 熊野大宮(伊弉諾)コースは、熊野大宮(伊弉諾)から熊野大宮(伊弉諾)まで、熊野大宮(伊弉諾)コース、宇治線(宇治)下り方面、その他熊野古道に分かれています。この古道は、熊野大宮(伊弉諾)コース、宇治線(宇治)下り方面、その他熊野古道に分かれています。

熊野古道案内 中心地図

田邊乃三人

粉骨齧身と
學ぶべし

南方熊楠



植芝盛平



神氣宇内

涌立



武蔵坊弁慶

あら明か
かえらから

紀伊田邊

- 田邊市立図書館
- 田邊市立博物館
- 田邊市立公民館
- 田邊市立生涯学習センター
- 田邊市立体育館
- 田邊市立市民会館
- 田邊市立市民センター
- 田邊市立市民ホール
- 田邊市立市民会館
- 田邊市立市民センター
- 田邊市立市民ホール



お手洗
♿



木像・牛馬童子モニュメント





熊野詣での主要地・中辺路町のご案内



熊野古道

熊野古道はかつて、熊野三山（本宮大社・速玉大社・那智大社）を目指して全国各地から、数多くの参詣者たちが踏み入った熊野詣での参詣道です。



中辺路町

中辺路町

なかでも、中辺路町は熊野詣での主要地に当り、千年のロマンと、数々の史跡が息づいています。

お問い合わせ
〇七三九・六四・一四七〇
熊野古道館



弁慶像







弁慶誕生の地とある





世界遺産
HERITAGE



紀伊山地の霊場と参詣道

Sacred Sites and Pilgrimage Routes in the Kii Mountain Range, and the Cultural Landscapes that Surround Them

辺路～熊野本宮のご案内

Nakahechi

To Kumano Hongu

のお問い合わせ
INFORMATION

本宮町観光協会

Hongu tourism association

TEL 0735-42-0735

ホームページ <http://www.hongu.jp/>







田辺ロータリークラブ 寄贈

田辺市 ゆかりの人々



西村 滋生 氏
田辺市生まれ。東京大学卒業。東京大学文学部教授。戦後、田辺市に転居し、田辺市立高等学校校長を務めた。田辺市立高等学校を卒業した。田辺市立高等学校を卒業した。田辺市立高等学校を卒業した。



西村 滋生 氏
田辺市生まれ。東京大学卒業。東京大学文学部教授。戦後、田辺市に転居し、田辺市立高等学校校長を務めた。田辺市立高等学校を卒業した。田辺市立高等学校を卒業した。



山本 三郎 氏
田辺市生まれ。東京大学卒業。東京大学文学部教授。戦後、田辺市に転居し、田辺市立高等学校校長を務めた。田辺市立高等学校を卒業した。田辺市立高等学校を卒業した。



山本 三郎 氏
田辺市生まれ。東京大学卒業。東京大学文学部教授。戦後、田辺市に転居し、田辺市立高等学校校長を務めた。田辺市立高等学校を卒業した。田辺市立高等学校を卒業した。



武蔵野 健児 氏
田辺市生まれ。東京大学卒業。東京大学文学部教授。戦後、田辺市に転居し、田辺市立高等学校校長を務めた。田辺市立高等学校を卒業した。田辺市立高等学校を卒業した。



野中 健児 氏
田辺市生まれ。東京大学卒業。東京大学文学部教授。戦後、田辺市に転居し、田辺市立高等学校校長を務めた。田辺市立高等学校を卒業した。田辺市立高等学校を卒業した。



小野田 健児 氏
田辺市生まれ。東京大学卒業。東京大学文学部教授。戦後、田辺市に転居し、田辺市立高等学校校長を務めた。田辺市立高等学校を卒業した。田辺市立高等学校を卒業した。



小野田 健児 氏
田辺市生まれ。東京大学卒業。東京大学文学部教授。戦後、田辺市に転居し、田辺市立高等学校校長を務めた。田辺市立高等学校を卒業した。田辺市立高等学校を卒業した。



高橋 健児 氏
田辺市生まれ。東京大学卒業。東京大学文学部教授。戦後、田辺市に転居し、田辺市立高等学校校長を務めた。田辺市立高等学校を卒業した。田辺市立高等学校を卒業した。



高橋 健児 氏
田辺市生まれ。東京大学卒業。東京大学文学部教授。戦後、田辺市に転居し、田辺市立高等学校校長を務めた。田辺市立高等学校を卒業した。田辺市立高等学校を卒業した。

安全への考慮

お客様に「安心」「信頼」していただく為
運行の安全を守る

お客様の安全を第一に考えています。お客様の安全を守るために、最新の設備を導入し、運転手さんの安全意識を高めています。お客様の安全を守るために、最新の設備を導入し、運転手さんの安全意識を高めています。

これもまた心霊写真のようになってしまった



ふるや 古谷石

古谷石は当田辺市の秋津川・古屋谷地区の山中からと隣村南部川村・仙谷・愛領地区から産する仙谷石とあり、石質は磁質石灰岩である。

古くは伊勢物語に記されてる清和天皇の貞観五年に筑見された礎石は隣村南部町岩代の千里の浜から出たもので既に千年以上を同じ古野山・巴陵院所蔵の本願堂石とや西丰頼寺の大名物石「木の松山」など、これら古谷石の歴史は古く下って江戸中期以降は頼山陽、真名海屋など多くの文人墨客もこの石を愛慕して数々の評文を残す。特に明治初期に当地目良碧翁翁は当時の有名雅客の評文を蒐めて「碧翁石譜」と著すなど特に古谷石の聲価を高めた。

愛石の趣味は古く中国から渡来したもので、古谷石は特に天然の姿の良きであり、色の美しくさや造った形のよきではなくあくまでも自然の石に天然の美を求め、之を座右石掌上に樂しむものであります。

当会では会員の親睦と愛石趣味の普及につとめて居り、同好の士の集り加と期待して居ります。

古谷石愛文会



調査隊は向こうからやってくる電車に乗って、次の目的地に向かう



